

中学校「新編 新しい国語」と小学校の指導事項との関連表

話す・聞く

小学校：■の項目は、学習指導要領およびその解説に記載されている指導事項。
 中学校：●の項目は、「新編 新しい国語」の各学習材の目標。【 】の項目は、各学習材の「言葉の力」。

	小学校 1・2年	3・4年	5・6年	中学校 1年	2年	3年
話題設定や取材 話題設定・取材	■身近なことや経験したことなどから話題を決める。 ■必要な事柄を思い出す。 ・必要な事柄をノートやカードに書き出す。 ・実際に話したり聞いたりするときに、更に必要な材料を集める。	■関心のあることなどから話題を決める。 ・興味や関心を持っている事柄を想起し、一つ的话题に絞る。 ■必要な事柄について調べ、要点をメモする。 ・調べたことの要点をメモする。 ・メモを活用して内容を整理し相互関係を考える。 ・相手や目的を意識して必要な事柄を取材したり、まとめたりする。	■考えたことや伝えたいことなどから話題を決める。 ■収集した知識や情報を関係付ける。 ・メモやノートの内容を比較、対照したり、関連のあることをまとめたり、分類したりして、自分の考えに生かす。	話し合いで理解を深めよう グループディスカッション ●お互いの体験や考えを出し合って整理する。	話し合いで問題を検討しよう リンクマップによる話し合い ●さまざまなメディアを使って討論のテーマを決め、メリットとデメリットを出し合う。 【テーマを決め、メリットとデメリットを出し合う】 ・さまざまなメディアを使って話題を見つける。 ・見つけた話題をもとに、多様な見方ができるか、参考にてきる事例を探せるかなどに注意して、討論のテーマを決める。 ・実施した場合に生じると考えられるメリットとデメリットをなるべく多く出し合う。メディアの情報を参考にしてもよい。	場面に応じて話そう 条件スピーチ ●体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考える。 【目的や相手、時間を意識する】 ・目的や聞き手の関心に合わせて、話す内容を決める。
話すこと 構成・述べ方 ●順序立てて話す	■相手に応じて、話す事柄を順序立てる。			具体例を挙げて伝えよう 「ことわざ」スピーチ ●具体例を取り入れ、順序立てて話を組み立てる。 【順序立てて話を組み立てる】 ・最初に、何について話すのかを述べる。 ・次に、伝えたいことを項目に分けて述べる。項目の内容をはっきりと示す語句を用いたり（ラベリング）、「まず」「次に」や「三つあります。一つ目は……」のような順序や数を表す表現を用いたり（ナンバリング）してもよい。 ・話の内容が込み入っているときには、最初にこれから述べることの全体の流れ（アウトライン）を示すとよい。		
構成・述べ方 ●論理的に話す		■相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てる。	■目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する。 ・自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、概説したり、結論づけを明確にしたりする。		説得力のある提案をしよう プレゼンテーション ●聞き手の立場や考えを想定して、説得力のある話を組み立てる。 【説得力のある話を組み立てる】 ・最初に提案を述べ、続いてその理由を柱立てて示す。 ・提案理由は具体的に述べる。数値を使うことで説得力が増すこともある。 ・聞き手の立場や気持ちになって質問や意見を予想し、答えとなる内容の示し方を工夫する。 ・聞き手が知りたいと思うことは、短所であっても素直に述べる。	

話す	構成・述べ方 ●効果的に話す		<ul style="list-style-type: none"> ■ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する。 ・ 理由や事例を挙げることに加え、必要な文言や数値などを引用したり、図解したり、重要語句の定義づけをしたりする。 	<p>説得力のある提案をしよう プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資料や機器を活用して、分かりやすく印象的に話す。 <p>【資料や機器を活用する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や絵で示すと分かりやすく伝わる。 ・ 数値や複雑な内容は、グラフや表、図にまとめる。 ・ 文字や図表の大きさ、色遣いなどを見やすいものにする。 ・ パソコンやOHPなどの機器を使ったり、資料を提示するタイミングを工夫したりして、印象に残る演出をする。 ・ 資料のどこに注目すればよいかを、指差しや言葉で伝える。 	<p>場面に応じて話そう 条件スピーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考える。 <p>【目的や相手、時間を意識する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話す時間に応じて、伝える情報量を調節する。時間に余裕があるときには、資料を提示するなどの工夫をするとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ● 敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方をする。 <p>【場の状況や相手の様子に応じて話す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話の途中で問いかけをしたり、質問を促したりしながら、聞き手の理解を深める。 ・ ジェスチャーを適切に使うと、様子や気持ちがよく伝わる。
	言葉遣い・音声・話し方	<ul style="list-style-type: none"> ■ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話す。 ■ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 相手や目的に応じて、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す。 ■ 言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す。 ■ 相手を見て話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 場に応じた適切な言葉遣いで話す。 ■ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話す。 	<p>具体例を挙げて伝えよう 「ことわざ」スピーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 声の大きさや話す速さ、間の取り方などに気をつけて、聞き取りやすく効果的な話し方をする。 <p>【聞き取りやすく効果的な話し方をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はっきりした発音と聞きやすい声の大きさを、ゆっくりと話す。 ・ 一文を短くして、接続表現を効果的に使う。 ・ 同音異義語など聞いて分かりにくい語は多用しないようにする。 ・ 効果的な、聞き手をひきつける間を取る。 ・ 聞き手の様子を見て、話が十分に伝わっていないと感じたときは、言葉を換えたり、だいじなことを繰り返し述べたりする。
聞くこと	相手の反応を踏まえる			<p>会話が弾む質問をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話の内容が深まったり広がったりするような、よりよい質問をする。 <p>【メモを取り、質問する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大切と思う言葉、つまりキーワードを中心にメモを取る。キーワードが何かがかかめなときは、できるだけ多くメモを取る。 ・ 意味が分かりにくいところや確認したいことに加えて、自分が興味を持ったこと、知りたいことについても質問する。 ・ 「なぜ」「どんな」「共通点があるか」といった質問を上手に使うと、相手の考えや人柄などをよりよく理解できる。 	<p>問題意識を持って聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 表現の仕方や根拠の確かさに注意して聞き、自分の考えを広げる。 <p>【聞き取ったことを吟味する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事実を伝えている表現と、話し手の主観（考え、印象や感想、心情）が表れている表現とを区別する。 ・ 考えについては、なぜそう考えるのかという根拠を捉えたうえで、根拠が確かなことか、同意できることかを吟味する。 ・ 主観が表れている表現や、考えの根拠について、数値を使うなどして客観的に述べるとどうなるかを検討してみる。
	正確に聞く	<ul style="list-style-type: none"> ■ だいじなことを落とさないようにしながら、興味を持って聞く。 ・ 事柄の順序を意識しながら聞き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 話の中心に気をつけて聞く。 ・ 話の組み立て方を意識しながら、話の要点を聞く。 ■ 質問をしたり感想を述べたりする。 ・ 分からない点や確かめたい点を質問したり、自分の感想や意見を述べたりする。 ・ 自分の経験と結び付けたり、自分の考えと比較しながら聞いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。 ・ 相手の話の内容をじゅうぶん聞き取るとともに、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめる。 	<p>評価しながら聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな観点から評価しながら聞き、自分の考えや表現に生かす。 <p>【話をさまざまな観点から評価する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手意識を持って、話し始めなどの表現を工夫しているか。 ・ 構成に工夫があり、主張や結論が明確に伝わるか。 ・ 主張の根拠が、説得力のあるもの、共感できるものであるか。 ・ 具体例やエピソードが分かりやすく印象的か。 ・ 一文を短くし、理解しやすい言葉を使っているか。 ・ 抑揚や間の取り方など、話し方の工夫がされているか。
	考えながら聞く・批判的に聞く				

話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ■ 互いの話を集中して聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し手の方に顔を向けるようにしたり、うなずいたりしながら聞く。 ■ 話題に沿って話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの発言を話し合いの流れの中に位置づけ、今後の展開を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 互いの考えの共通点や相違点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 司会者や提案者、参加者などの役割に基づいて、立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う。 	<p>話し合いで理解を深めよう グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お互いの体験や考えを出し合って整理する。 <p>【体験や考えを出し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えたことを全員が発言できるように、開放的な雰囲気を作る。 ・ 自分が話したいことを、率直に発言する。 ・ 人の発言を聞くときは、まずは受け止めるようにする。発言に対する疑問点や問題点を先に述べてしまうと、いろいろな考えを言いにくい雰囲気になってしまう。 ● 相手の発言をしっかりと聞き、話の方向を捉えて自分の考えを話す。 <p>【相手の考えを受けて話す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないことや知りたいことを質問したり、確認したりする。 ・ 相手の考えを受けて自分の考えや感想を述べる。相手の発言を一部引用して話すのもよい。 ・ 相手の考えに反対したり疑問を述べたりするときには、強い調子にならないように、和らげる言い方を用いる。 ・ ほかの人にも発言を促し、全員で話し合いを作りあげていく。 	<p>話し合いで問題を検討しよう リンクマップによる話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テーマについて話し合って検討し、意見をまとめる。 <p>【テーマについて検討する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各メリット・デメリットが本当に生じるといえるかを、データの裏付けがあるか、隠れた前提がないかなどの視点で検討する。 ・ デメリットについては、現状でも生じていないか、解消する手段がないかも考える。 ・ 各メリット・デメリットの重要性を比較し、また、それらが実際に生じる可能性も考慮して、テーマに対する賛否を決める。 ・ メリットを強めたり、デメリットを弱めたりするような修正提案をしてもよい。 	<p>話し合いで問題を解決しよう チャート式討論</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問題の解決に向けて、お互いの考えを生かし合う。 <p>【お互いの考えを生かし合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の発言を踏まえて、自分の意見を述べる。 ・ 自分の考えとは異なる意見にも、共通点を見つけようとする。 ・ 相手の意見に反論するときには、分からない点を質問するなどして、相手の意見を正しく理解したうえで発言する。 ・ 自分の意見にこだわりすぎず、相手の意見によいところや納得できるところがあれば、考えを変える柔軟さを持つ。
司会・進行		<ul style="list-style-type: none"> ■ 司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 司会者は、進行表に沿って進行することから、徐々に、提案者や参加者の発言を整理したり、促したり、まとめたりすることに高めていく。 ・ 提案者は、話す内容を整理したり、話し方に注意したりする。 				<p>話し合いで問題を解決しよう チャート式討論</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話し合いが効果的に展開するように、進行の仕方を工夫する。 <p>【論点を整理する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見が分かれている点が論点となる。 ・ 一つの意見に複数の論点が含まれていることもある。 ・ 一つ一つの論点に優先順位をつけて、大きな論点からより細かい論点へと議論が進むようにする。

中学校「新編 新しい国語」と小学校の指導事項との関連表



小学校：■の項目は、学習指導要領およびその解説に記載されている指導事項。

中学校：●の項目は、「新編 新しい国語」の各学習材の目標。【】の項目は、各学習材の「言葉の力」。

		小学校 1・2年	3・4年	5・6年	中学校 1年	2年	3年
課題設定や取材	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経験したことや想像したことなどから書くことを決める。 ■ 書こうとする題材に必要な事柄を集める。 ・ 必要な事柄を思い出したり、想像したりして、ノートやカードにメモを取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関心のあることなどから書くことを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関心のあることなどから書くことを決める。 		<p>調べて考えたことを伝えよう 「食文化」のレポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ふだんの生活やメディアなどで見聞きすることからテーマを決め、調査して自分の考えをまとめる。 <p>【テーマを設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 興味のある物事について、まずは百科事典などで調べてみる。 ・ 調べて、おもしろいところや、もっと知りたいところを見つけ、そこからテーマを考える。 ・ 「なぜ」「どんな」「どこから」など、問いの形でテーマを立てると、問題点が明確になり、新しい発見が期待できる。 ・ 複数の事柄を比較するテーマ設定も有効である。 	<p>今の思いをまとめよう 時を超える手紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学校生活を振り返ったり将来を展望したりして、思いを手紙にまとめる。 <p>【書きたい内容を考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の体験や望みを見つめ直す。 ・ 自分と相手（手紙の宛先）との関わりも意識する。
	取材・調査		<ul style="list-style-type: none"> ■ 相手や目的に応じて、書くうえで必要な事柄を調べる。 ・ 相手や目的を明確に意識し、必要なことを調べて取材する。 ・ 適切な方法を選択し調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。 	<p>構成を考えて書こう 「私」の説明文</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ふだんの生活や自分について振り返り、書くための材料を集め、伝える内容を考える。 <p>【材料を集める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後で絞り込んでいけばよいので、あまり重要ではなさそうなことも含めて、まずはなるべくたくさん挙げてみる。 ・ なかなか材料が集まらないときには、自分の所属しているところ（学校・クラス・係・部活動）など、観点を決めて、そこから連想を広げていくのもよい。 <p>作品のよさを表現しよう 歌の鑑賞文</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作品のよさを伝えるという目的に沿って、鑑賞文を書くための材料を集め、自分の考えをまとめる。 <p>【作品を鑑賞し、考えをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の全体から感じたことを言葉にする。 ・ 作品の中で印象に残った部分を見つけ、そこから読み取ったことや感じたことを書き出す。 ・ 作品の全体から感じたことと、部分から感じたことをつながり考えてみる。 ・ 「場面」「心情」「表現」など、観点を持って作品を鑑賞するのもよい。 	<p>編集して伝えよう 「環境」のミニ雑誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書く。 <p>【内容を膨らませて書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ある材料をきっかけに、新たに知りたいことが出てきたら調べたり、関連する体験を思い出したりして、材料を増やしていく。 ・ 体験を書くときには、そのときの状況を具体的に描写したり、会話文を取り入れたりするのもよい。 <p>観察・分析して論じよう 批評文</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 批評の対象について、観察・分析したり、比較したりして、自分なりの判断を下す。 <p>【複数の対象を比較する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一つの対象だけではよいか悪いかを決めにくい場合でも、複数の対象を比べてみると、どれがよいかを判断しやすくなる。 ・ 対象にとって重要だと思うことを自分なりの観点として決め、その観点に沿って比較してみる。 ・ 比較することで、それぞれ異なった特徴を持っていることが見えてくる。 	

- 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。
- ・取材した事柄の順序に沿いながら、文章のはじめから終わりまでを、内容のまとまりごとに、いくつかに分けて配置する。
- ・「はじめ—中—終わり」などの構成を意識する。

- 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する。
- ・累加や並列といった接続関係や、具体的な事柄と抽象的な事柄、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係に注意する。
- ・「冒頭部—展開部—終結部」などの文章の展開に即して、各部分での段落の役割を強く意識して、自分の考えが明確になるように工夫する。

- 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考える。
- ・目的や意図に応じて効果的な構成を用いる。
- ・読み手の関心を喚起する事例を配置したり、概説や要約を活用したり、冒頭部や終結部の書き方を工夫したりする。

構成を考えて書こう
「私」の説明文

- 材料を分類するなどして整理し、段落の役割を考えて、伝えたい内容にふさわしい文章構成で書く。

【材料を整理し、文章を構成する】

- ・材料どうしの共通点を見つけてグループにする。また、各グループの見出しを考えてみる。
- ・整理して選び出した材料に合わせて、「項目を立てて説明する」「時間の経過に沿って説明する」「5W1Hを押さえて説明する」「比較して説明する」など、ふさわしい文章の構成を考える。

案内や報告の文章を書こう

- 必要な情報を選び出し、分かりやすい構成でまとめる。

【掲載する情報を選択する】

- ・読者は誰かということ意識して、必要な情報を絞っていく。
- ・文章の形式に応じ、季節の挨拶など、文章を彩る言葉を加える。

調べて考えたことを伝えよう
「食文化」のレポート

- 調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫してレポートを書く。

【レポートの構成を工夫する】

- ・基本的には、次のような構成で書くことよい。

 - 1 テーマ テーマと、それを選んだ理由を示す。
 - 2 調査方法 どんな方法で調べたかを示す。
 - 3 調査結果 調べて分かった事実を中心に書く。
 - 4 考察 自分の考えをまとめる。
 - 5 参考資料 参考にした資料の一覧を示す。

- ・「調査結果」は、まとまりごとに分け、載せる順序を考える。

反対意見を想定して書こう
意見文

- 自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書く。

【分かりやすい構成で意見文をまとめる】

- ・意見文は、次のような構成で書くことよい。

 - 1 自分の主張を述べる。
 - 2 主張の根拠を挙げる。根拠が複数あるときには、「第一に」「第二に」という書き方（ナンバリング）を用いることよい。
 - 3 反対の主張の根拠を予想し、それに反論する。
 - 4 まとめる（改めて主張を述べる）。

編集して伝えよう
「環境」のミニ雑誌

- 知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書く。

記述	つながり・中心	<ul style="list-style-type: none"> ■ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 書こうとすることの中心を明確にする。 				
	論理的記述		<ul style="list-style-type: none"> ■ 目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。 ・ 理由については、因果関係がある場合や、複数の要因によって帰結する場合などに応じて、記述する内容を検討したり、表現の仕方について学んだりする。 ・ 事例については、エピソードとなるようなまとまったものや、考えに該当するいくつかの実例、具体的な本や文章、絵や写真など事物そのものを取り上げて描写や説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。 ・ 事実（出来事や科学的な事実の他、想像したことや、物語などで描写されるフィクションの世界なども含む）と自分の感想、意見などを区別して書く。 ・ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見などを詳しく書いたり、簡単に書いたりするなど、記述の仕方を工夫する。 ・ 出来事などの描写と、科学的な観察や実験、調査結果の説明などとの表現の違いを考えて工夫する。 	根拠を明確にして書こう 意見文 <ul style="list-style-type: none"> ● 説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して自分の意見を書く。 【根拠を示す】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の主張を述べるときには、なぜそう考えるのかという根拠を明確に示すようにする。 ・ 根拠は、できるだけ具体的に述べるとよい。また、一つよりも複数の根拠を示したほうが説得力が増すことが多い。 ・ 根拠を考えてから、本当にそれで説得力があるかどうかを更に検討してみることが大切である。 	反対意見を想定して書こう 意見文 <ul style="list-style-type: none"> ● 意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりする。 【反論を考える】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 反論をするときには、相手側の主張の根拠をよく検討する。 ・ 相手側の根拠に反する事例（反例）はないかを探してみる。 ・ 相手側が長所として述べていることについて、別の見方はできないかを考えてみる。 	観察・分析して論じよう 批評文 <ul style="list-style-type: none"> ● 論の進め方を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。 【説得力のある批評文を書く】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の判断の根拠は、できるだけ具体的に示す。 ・ 対象のうち、最も優れていると思ったものだけでなく、他のものについても言及するとよい。
	表現・描写			作品のよさを表現しよう 歌の鑑賞文 <ul style="list-style-type: none"> ● 作品中の表現を根拠にして、感じたことや考えたことがよく伝わるように鑑賞文を書く。 【感じたことや考えたことを表現する】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を鑑賞して感じたことや考えたことを書くときには、作品のどの部分からそれがいえるのか、根拠を示す。 ・ 同じことを伝えるのでも、使う言葉によって印象が違ってくる。自分の感覚にぴったりの言葉を探すようにする。 	短歌のリズムで表現しよう <ul style="list-style-type: none"> ● 自然や体験の描き方を工夫して、短歌を作る。 【描き方を工夫する】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鮮明な印象を与えるように言葉を選ぶ。 ・ 読者が想像を広げたいかのように書く。 いきいきと描き出そう 短歌から始まる物語 <ul style="list-style-type: none"> ● 情景や心情などをいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作る。 【豊かに描写する】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人物の心情や、行動の理由などを直接説明するよりも、「何を感じているのかな。」「どうしてこんな行動をするのかな。」と読み手に想像させるように人物や場面の様子を描き出す。 ・ 形、色、明るさ、動き、音、肌触り、温度、匂い、味など、五感に訴えるような描写をする。会話文を入れたり、擬音語・擬態語を用いたり、比喩などの表現技法を使ったりするのもよい。 		
	言葉遣い		<ul style="list-style-type: none"> ■ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書く。 				
	引用・図表		<ul style="list-style-type: none"> ■ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く。 	学校新聞の記事を書こう <ul style="list-style-type: none"> ● 図表を用いて情報を効果的に伝える。 【図表を用いて情報を伝える】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい情報に適した図表の種類を選び、表し方を工夫する。 ・ 図表の作り方によって、伝わり方が変わることには注意する。 ・ 情報の出所を明示する。 		編集して伝えよう 「環境」のミニ雑誌 <ul style="list-style-type: none"> ● 知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書く。 【内容を膨らませて書く】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べて分かったことをもとに、自分なりの表現でまとめ直す。または、資料の言葉をかぎ括弧で区切って引用する。資料をまる写しにして、それを自分の文章のように示すことは避ける。 観察・分析して論じよう 批評文 <ul style="list-style-type: none"> ● 論の進め方を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。 【説得力のある批評文を書く】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて参考資料の一部を引用してもよい。引用する文章はかぎ括弧に入れて、出典（書名など）を明示する。

推敲	推敲	<ul style="list-style-type: none"> ■文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに気づき、直す。 <ul style="list-style-type: none"> ・主語・述語のつながりや句読点の打ち方などの構成上の明確さや、表記、文末表現（敬体や常体）などに注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■文章の間違いを正したり、より良い表現に書き直したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語および修飾と被修飾の関係の明確さや、表記の仕方、文末表現（敬体と常体、断定や推量、疑問など）の使い方などに注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えなどを明確に表しているか、相互関係が明確な構成か、表現の曖昧さはないかなどについて確かめる。 	<p>小さな発見を詩にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●言葉を選び、表現を工夫して、詩を仕上げる。 <p>【表現を工夫する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ語句の反復（繰り返し）を取り入れるなどして、リズムをよくする。 ・新鮮なものの見方を、比喩で表す。擬人法（比喩を使って人以外のものを人のように表す方法）などを用いるのもよい。 	<p>依頼状やお礼状を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書いた文章を読み返し、語句や文の使い方などに注意して推敲する。 <p>【手紙を推敲する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙の形式を守っているか。 ・伝える情報に漏れがないか。 ・言葉遣いは適切か。失礼なところはないか。 <p>タウン誌の記事を推敲しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●構成や表現の効果について考えて、文章を推敲する。 <p>【より効果的に伝わるように推敲する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手や目的を考えて、不要な情報は削除する。 ・順序を入れ替えたほうがよいところはないかを検討する。 ・興味をひく書きだし、言葉の選び方、臨場感のある描写、会話文の使用、文末表現の仕方など、表現を工夫する。 ・読み手の興味・関心をひく見出しを付ける。 	<p>編集して伝えよう</p> <p>「環境」のミニ雑誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書いた文章を読み返し、推敲して紙面を仕上げる。 <p>【推敲して読みやすい文章に仕上げる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不正確な表現や難解な言い回しは避け、別の表現に言い換える。 ・説明が不足していると思われるところは、より丁寧に説明する。 ・余分と思われるところは省いて簡潔にする。 <p>今の思いをまとめよう</p> <p>時を超える手紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ●下書きした手紙を読み返し、文章を整えて清書する。 <p>【手紙の書きだしと結びを整える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改まった手紙では、「拜啓」と書きだしてから、時候の挨拶として、今の季節らしさを感じさせる事柄について簡潔に書く。このとき、本文の最後は「敬具」と結ぶ。 ・親しい相手に宛てた場合などには、「前略」と書きだして、時候の挨拶などを省く書き方もある。結びは「草々」とする。
交流	交流	<ul style="list-style-type: none"> ■書いたものを読み合い、良いところを見つけて感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・推敲して書き終えた文章だけではなく、学習計画や、取材、構成の段階のメモなど書くことの学習過程についても発表し合う。 ・記述した内容以外に、相手について配慮したことや、記述の仕方などで工夫したことなどを紹介し、自分の考えに至ったきっかけなどについても交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・記述した内容そのものに加えて、書こうとした意図（誰に、どのような目的で、どのような表現を用いたのかなど）を述べる。 ・書く目的や意図に応じた文章構成や表現になっているかどうかについて、修正すべき内容とともに、どのように書き換えればよいのかを具体的に指摘し合う。 	<p>根拠を明確にして書こう</p> <p>意見文</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さや説得力などを確かめ合う。 <p>【読んで確かめ合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい文章構成で、根拠が明確に示されているか。 ・示されている根拠に説得力はあるか。 ・的確な言葉遣いで書かれているか。誤字や脱字はないか。 	<p>いきいきと描き出そう</p> <p>短歌から始まる物語</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書いた物語を読み合って、材料の活用の仕方などについて意見を交換し、自分の考えを広げる。 <p>【意見交換の観点を持つ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料にした短歌からうまく発想を広げているか。 ・物語の流れ（筋立て）に無理がないか。 ・情景や人物の描写を工夫して場面を描いているか。 	<p>俳句を作って句会を開こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●俳句を作って互いに読み合い、作品のよさを評価する。 <p>【読み合って評価する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五・七・五のリズムを生かしているか。 ・季語を一つ詠み込んでいるか。 ・情景や心情が伝わってくるか。 ・はっとさせられる新鮮な表現になっているか。 <p>観察・分析して論じよう</p> <p>批評文</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書いた批評文を読み合って評価し、ものの見方や考え方を深める。 <p>【批評文を評価する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象をしっかり観察・分析しているか。 ・結論を明快に示しているか。 ・なぜそう結論したのかという根拠を具体的に述べているか。 ・読者をひきつけるように表現を工夫しているか。

中学校「新編 新しい国語」と小学校の指導事項との関連表

読む

小学校：■の項目は、学習指導要領およびその解説に記載されている指導事項。

中学校：●の項目は、「新編 新しい国語」の各学習材の目標。【 】の項目は、各学習材の「言葉の力」。

		小学校 1・2年	3・4年	5・6年	中学校 1年	2年	3年
(音読・) 語句の意味の理解	音読・朗読	<ul style="list-style-type: none"> ■ 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。 ・ 明瞭な発音で文章を読む。 ・ ひとまとまりの語や文として読む。 ・ 言葉の響きやリズムなどに注意して読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。 ・ 内容の中心を理解し、軽重や速さなど音読の仕方を変える。 ・ 物語では、各場面を意識して、様子がよく分かるように音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。 ・ 書き手の意図を考え自分の思いや考えを合わせてどのように語りたいのかを決めたうえで、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などに気をつけて音読する。 ・ 自分が思ったことや考えたことが伝わるように朗読する。 	風の五線譜 <ul style="list-style-type: none"> ● 詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。 話し方はどうか <ul style="list-style-type: none"> ● 話し方について知り、声に出して文章を読む。 詩の心——発見の喜び <ul style="list-style-type: none"> ● 言葉の意味を的確に捉え、詩を音読して読み味わう。 月夜の浜辺 <ul style="list-style-type: none"> ● 詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 	未来へ <ul style="list-style-type: none"> ● 時を表すさまざまな表現に注意して詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。 落葉松 <ul style="list-style-type: none"> ● 詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 	生命は <ul style="list-style-type: none"> ● 詩の意味や効果的な表現を捉え、読み方を工夫して音読する。 初恋 <ul style="list-style-type: none"> ● 表現の特徴を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。
	語句の意味の理解				名づけられた葉 <ul style="list-style-type: none"> ● 詩の中で使われている言葉の意味を的確に捉える。 	メッセージをどう聞くか <ul style="list-style-type: none"> ● キーワードの意味に注意して、筆者の考えを捉える。 短歌を楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ● 情景や心情を表す語句に注意して、短歌を読み味わう。 わたしが一番きれいだったとき <ul style="list-style-type: none"> ● 心情が読み取れる言葉に注意して詩を読む。 	二つのアザミ <ul style="list-style-type: none"> ● 表現の工夫に注意して、筆者の考えを捉える。 俳句の読み方、味わい方 <ul style="list-style-type: none"> ● 表現の工夫に着目して、俳句を読み味わう。 レモン哀歌／生ましめんかな <ul style="list-style-type: none"> ● 効果的な言葉の使い方に注意して詩を読む。

文章の解釈
●説明的な文章

■時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む。

■目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。
 ・中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりするなどして、内容を整理する。
 ・指示語や接続語、文末表現に注意して読む。
 ・事実と意見とがどのように区別されているのかを把握したり、文章における事実と意見の記述の仕方の違いについて気づいたりする。

■目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする。
 ・目的に応じて、文章の重要な点を表現に即して的確に抑え、求められている分量や表現の仕方などに合わせてまとめる。
 ・筆者の感想や意見とそれを支える理由や根拠との関係を押さえ、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握する。
 ・自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら読む。

オオカミを見る目

●段落の役割や段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。

【段落の役割や段落どうし関係を捉える】

・説明的な文章の内容や構成を捉えるには、次の三つに着目し、文章全体をいくつかのまとまりに分けてみるとよい。
 ・各段落の内容……キーワードを見つける。
 ・文章全体における段落の役割……段落の役割には、例えば、次のようなものがある。
 導入、問題提起・話題提示、説明、補足、まとめ など
 ・前後の段落との関係（段落どうし関係）……接続表現（つなぐ言葉）や指示語（指し示す言葉）を手がかりにする。

ズメは本当に減っているか

●事実と筆者の考えとを読み分けながら、文章の展開を捉える。

【事実と筆者の考えを区別する】

・事実とは、確かなこと、例えば、実際に起こった出来事、信頼できるデータ、科学的に証明された事柄などである。
 ・考えとは、まだ確かでないこと（推測）や、人によって賛成・反対が分かれること（意見）である。
 ・考えがどのような根拠から導かれているかにも着目する。
 ・文末表現が事実と考えの区別の手がかりになることもある。

飛べかもめ/さんちき

●場面の様子や登場人物の思いに注意して、作品を読み味わう。

【表現を手がかりにして考える】

・登場人物がどんなことを感じたり考えたりしているのかを捉えるためには、登場人物の言葉や行動・態度などを描いた表現が手がかりになる。
 ・場面の様子（情景）を描き出した表現にも着目するとよい。

少年の日の思い出

●場面の展開を捉え、人物や情景を描いた表現に着目して、作品を読み深める。

【伏線に着目する】

・作品中にさりげなく描かれている事柄が、後で出てくる事柄と関連し合っ、意味や効果を生み出すようなとき、前のほうに書いてある表現のことを「伏線」という。
 ・伏線に着目することで、作品の読みをより豊かなものにしていくことができる。

経節——世界に誇る伝統食

●文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。

【文章の構成を捉え、要約する】

・長い文章の構成を捉えるには、次のようにするとよい。
 ・問いや話題を提示している文や段落、内容のまとめに当たる文や段落を見つけ、それを手がかりに文章をいくつかのまとまりに分ける。
 ・まとまりどうし関係を捉える。
 ・要約するときには、構成を捉えることに加えて、目的や相手に応じて内容を選んだり絞ったりすることが必要である。

哲学的思考のすすめ

●論の進め方を捉え、文章の内容を読み取る。

【論証を吟味する】

・論証を吟味するときには、まず、結論（筆者の考え）とその根拠を捉える。
 ・次に、示されている根拠が正しいかどうか、また、根拠から結論が適切に導かれているかどうかを吟味する。例えば、結論について、反例やほかの考えの可能性がないかを考えるとよい。

絶滅の意味

●論の進め方に着目して、筆者の主張を捉える。

【説得力を高めるための論の進め方を捉える】

・何らかの主張を述べる文章を読むときには、説得力を高めるための論の進め方に着目しよう。
 ・主張を支える根拠は、具体例を示すなどして詳しく述べると、説得力を増す。
 ・あえて筆者とは異なる立場の主張を取り上げ、それに反論することで、説得力を高める。

■場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。

■場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読む。
 ・各場面の様子に気をつけながら場面と場面とを関連付けて読む。
 ・登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押さえ、登場人物どうし関係や、物語のうえでの役割を考えながら読む。
 ・叙述をもとに、それぞれの登場人物の性格や境遇、状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて、地の文や行動、会話などから関連的に捉える。

■登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる。
 ・登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、内面にある深い心情も合わせて捉える。
 ・優れた表現や内容などに気づき、それらを評価したり、自分の表現に生かしたり、感想文や解説文などにまとめたりする。

文章の解釈
●文学的な文章

■場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。

■場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読む。
 ・各場面の様子に気をつけながら場面と場面とを関連付けて読む。
 ・登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押さえ、登場人物どうし関係や、物語のうえでの役割を考えながら読む。
 ・叙述をもとに、それぞれの登場人物の性格や境遇、状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて、地の文や行動、会話などから関連的に捉える。

■登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる。
 ・登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、内面にある深い心情も合わせて捉える。
 ・優れた表現や内容などに気づき、それらを評価したり、自分の表現に生かしたり、感想文や解説文などにまとめたりする。

飛べかもめ/さんちき

●場面の様子や登場人物の思いに注意して、作品を読み味わう。

【表現を手がかりにして考える】

・登場人物がどんなことを感じたり考えたりしているのかを捉えるためには、登場人物の言葉や行動・態度などを描いた表現が手がかりになる。
 ・場面の様子（情景）を描き出した表現にも着目するとよい。

少年の日の思い出

●場面の展開を捉え、人物や情景を描いた表現に着目して、作品を読み深める。

【伏線に着目する】

・作品中にさりげなく描かれている事柄が、後で出てくる事柄と関連し合っ、意味や効果を生み出すようなとき、前のほうに書いてある表現のことを「伏線」という。
 ・伏線に着目することで、作品の読みをより豊かなものにしていくことができる。

字のない葉書/卒業ホームラン

●登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているかに注意して、作品を読み味わう。

【登場人物の言葉や行動の意味に注意する】

・登場人物の言葉から心情を捉えるときには、言葉の内容だけでなく、どんな言葉遣いをしているかということにも着目するとよい。
 ・行動や態度からは、言葉にならない思いが読み取れることもある。

走れメロス

●人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。

【人物像に着目する】

・登場人物の言葉や行動・態度などがどのように描かれているかに着目すると、その人物の人物像や考え方などの特徴、つまり人物像を捉えることができる。
 ・人物の描かれ方にどのような意味があるのかを考えると、作品を深く読み味わうことができる。

形/百科事典少女

●場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、作品を読み味わう。

故郷

●場面の展開と人間関係の変化を捉えて、作品を読み深める。

【人間関係の変化に着目する】

・作品中に主要な人物が何人か登場する場合、それぞれの人物には異なった特徴が設定されていることが多い。
 ・立場や考え方の異なる人物が登場し、さまざまな出来事が起こることで、人間関係が新たに生まれたり変化したりしながら場面は展開していく。
 ・人間関係の変化を捉え、その背景や理由を考えることは、作品を読み深めるうえで大切である。

書き抜き・引用・要約

- 文章の中のだいたいな言葉や文を書き抜く。
 - ・ 内容や表現から見てだいたいな言葉や文を書き抜く。
 - ・ 書き抜いた言葉や文について、感じたことや考えたことなどを書き添えたり、それらの言葉や文を関係付けて整理したりする。
 - ・ 書き抜いたものに書き足したり、書き換えたりして、整理することへ発展させる。

- 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする。
 - ・ 文章の中心となるだいたいな事柄や、自分がある考えや感想を持つようになった理由、事例として挙げられている事実、人物や情景の描写などの表現の細かい点に注意しながら読む。
 - ・ 引用の仕方を学び、引用したことについて、自分の思いや考えを書く。
 - ・ 要約する目的を明確にし、分量や時間、元の文章の構成や表現の生かし方などを考えて要約する。

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える。

経節——世界に誇る伝統食

- 文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。

【文章の構成を捉え、要約する】

 - ・ 長い文章の構成を捉えるには、次のようにするとよい。
 - ・ 問いや話題を提示している文や段落、内容のまとめに当たる文や段落を見つけ、それを手がかりに文章をいくつかのまとまりに分ける。
 - ・ まとまりどうしの関係を捉える。
 - ・ 要約するときには、構成を捉えることに加えて、目的や相手に応じて内容を選んだり絞ったりすることが必要である。

考えの形成
●文章の形式

- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる。
 - ・ 優れた表現や内容などに気づき、それらを評価したり、自分の表現に生かしたり、感想文や解説文などにまとめたりする。

オオカミを見る目

- 筆者の文章の書き方について、自分の考えを持つ。

少年の日の思い出

- 作品の構成の工夫について、自分の考えを持つ。

トロッコ

- 文学作品を読み、情景描写などの表現の効果について考える。

短歌を楽しむ

- 短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。

【短歌を鑑賞する】

 - ・ 短歌の形式を理解する。短歌は、五・七・五・七・七の三十一音を定型とする。
 - ・ 音読して、短歌のリズムを感じ取る。
 - ・ 句切れに注意して、音読や意味の理解に役立てる。
 - ・ 語句の意味や表現技法などに注意して、情景や心情を捉える。
 - ・ 読み取ったことから、想像を広げていく。

走れメロス

- 場面の展開や表現の仕方について、自分の考えをまとめる。

俳句の読み方、味わい方

- 俳句のよさを評価してまとめる。

【俳句を鑑賞する】

 - ・ 俳句の形式を理解する。五・七・五の十七音を定型とし、季節感を表す言葉「季語」を詠み込むのが基本。これを「有季定型」という。
 - ・ 音読して、俳句のリズムを感じ取る。
 - ・ 季語について調べたいときには、季語を分類・整理した書物「歳時記」を使うとよい。
 - ・ 切れ、切れ字、取り合わせなどにも留意する。切れ字には、主なものに「や」「かな」「けり」がある。
 - ・ 季語のない無季の俳句や、定型によらない自由律の俳句もある。

形／百科事典少女

- 場面の展開や表現の仕方に着目し、作品を評価する。

【作品を批評する】

 - ・ あるものの特徴を捉えて、そのよさや価値について評価して論じることを「批評」という。小説などの文学作品を批評するときには、次のような点に着目するとよい。
 - ・ 登場人物の人物や考え方、場面の展開、表現の仕方などの特徴を捉え、それらの意味や効果を考える。
 - ・ 作品のどういうところに工夫や魅力を感じるか、作品について自分はどう評価するかなどを述べる。

黄金の扇風機／サハラ砂漠の茶会

- 文章を読み比べて、論の進め方や表現について評価する。

【読み比べて自分の考えをまとめる】

 - ・ 複数の文章を読み比べるときには、次の点に注意する。
 - ・ 文章の構成や展開、具体例の用い方、文末表現や言葉の使い方など、書き方にも着目して、その意図や効果を捉える。

自分の考えの形成（・交流）	<p>考えの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文章の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ■文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。 ■本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・多様な本や文章を読み、目的に応じて報告や意見、解説や新聞の記事、推薦などの文章として考えをまとめ、発表し合う。 	<p>詩の心——発見の喜び</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩を鑑賞し、自分のものの見方を広くする。 <p>【詩を鑑賞する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読して、言葉の響きを感じ取る。 ・描き出されている風景や、詩に込められている思いを想像する。 ・比喩などの表現技法に着目する。 <p>飛べかもめ／さんちぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作品から読み取ったことをもとに想像を膨らませ、自分のものの見方を広くする。 <p>ススメは本当に減っているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文章の内容や、筆者のものの見方、考え方について、感想や考えを持つ。 <p>名づけられた葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩に表れているものの見方を捉え、自分の考え方を広くする。 	<p>字のない葉書／卒業ホームラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを持つ。 <p>鯉節——世界に誇る伝統食</p> <ul style="list-style-type: none"> ●筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。 <p>哲学的思考のすすめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●筆者の考えなどについて、知識や体験と関連づけて自分の考えを持つ。 <p>わたしが一番きれいだったとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩に表れているものの見方や考え方について、感想を持つ。 <p>坊っちゃん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文学作品を読み、登場人物の考え方や人柄などについて考える。 	<p>絶滅の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人間社会と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ。 <p>黄金の扇風機／サハラ砂漠の茶会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文章を読み比べて、文章の内容について自分の考えを持つ。 <p>【読み比べて自分の考えをまとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の文章を読み比べるときには、次の点に注意する。 ・考えの共通点と相違点を整理する。 ・考えの根拠がどのようなものであるかを比較する。 ・自分の知識や体験とも関連づけて、それぞれの考えとその根拠を吟味しながら、自分の考えをまとめる。 <p>故郷</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作品を読んで、社会の中で生きる人間について考え、自分の意見を持つ。 <p>レモン哀歌／生ましめんかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ●詩に描かれた生と死について考え、感想を持つ。 <p>最後の一句</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文学作品を読み、人間や社会について考える。 	
	交流	<ul style="list-style-type: none"> ■自分の思いや考えを発表し合う。 ・話し言葉による発表の他、劇で演じたり、書き言葉によって表したものを読み合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づく。 				
読書と情報活用	読書	<ul style="list-style-type: none"> ■楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する。 ■目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む。 ・同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章、同じ筆者の本や文章などを比べて読み、知識や情報を豊かにしたり、読書の範囲を広げたりする。 ・適切な本や文章を選ぶために、学校図書館やインターネットなどの利用に関する知識、情報モラルなどを身につける。 	<p>碑</p> <p>〈読書カードを作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本の中から目的に合った文や語句を見つける。 	<p>小さな労働者</p> <p>〈本の広告カードを作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本を読み、その魅力について自分の考えをまとめる。 	<p>落語の秘密</p> <p>〈ビプリオバトルをしよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読んだ本を紹介し合い、知識を広げ、自分の考えを深める。 <p>何のために「働く」のか</p> <p>〈読書生活を振り返ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読んだ本を振り返り、これからの読書生活への展望を持つ。
	情報活用			<p>集まって住む</p> <p>〈本紹介のポスターを作ろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的に合った本を探し、必要な情報を読み取ってまとめる。 <p>ニュースの見方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報への接し方と情報の用い方を身につける。 <p>【情報を見極める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報は発信者によって編集されたものであり、映像や写真も事実の一部を切り取ったものであることを意識する。 ・発信者が専門家か、公平な立場にあるかを考える。 ・複数の情報源に当たって、信頼できる情報かを確認する。異なる見方や考え方ができないかにも注意する。 	<p>歴史の物差し——水月湖の年縞</p> <p>〈ミニ読書会を開こう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●複数の情報源から情報を得て、比べながら自分の考えをまとめる。 <p>「正しい」言葉は信じられるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事実の述べ方による、読み手に与える印象の違いについて考える。 <p>【事実と言葉の関係を意識する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの事実を、さまざまな言語表現によって言い表すことができる。 ・文の順序や言葉の選び方によって、読み手に与える印象が異なってくる。 	<p>いつものように新聞が届いた——メディアと東日本大震災</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報の意義とメディアの役割について考えを深める。 <p>【情報をより深く捉える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝わってくる情報の背後にある、発信者の意図や願い、行動を、想像したり考えたりする。 ・メディアの種類や発信者の立場によって、伝える情報の選択や、情報の伝え方・伝わり方に違いが出ることを意識する。 	